

代表取締役社長

山内一裕

プロクライマー

大場美和

当社は123周年を迎えることを機に新しいロゴマークを作り、「新しい時代の先へ」をテーマに事業展開を加速させています。今回は「新しい時代の先へ」にちなんで、

2020年東京オリンピックの追加種目に決まったスポーツクライミングの世界から、プロクライマーの大場美和選手にお越し頂き「挑戦と冒険」をテーマに山内社長と対談して頂きました。

大場美和選手プロフィール

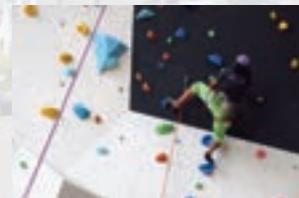
スポーツクライミングのうちボルダリングを得意とし、ユース年代から国内外で数々の実績を残し、2015年・2016年に日本代表。現在は、自然の岩にとことん向き合いたいとの思いからプロクライマーに転身し活躍中。TV・CM・イベント出演多数。1998年生まれ 愛知県出身

山内 実は、当社はクライミングに浅からぬご縁があるのです。当社の主力事業である商業施設「サントムーン柿田川」（静岡県三島市近郊所在）には、21年以上前のオープン当初からクライミングのトレーニング設備を有するアウトドア専門店があるので。開店当時は日本一の高さだったと聞いています。さらに、現在進行中の「サントムーン柿田川」第4期開発の一環として別棟を新築し、先般10月11日に、クライミング設備を一新のうえアウトドア専門店SWENが先行開業したところですよ。（写真ご参照）

大場 私が生まれる前から、ダイトウボウグループがクライミングにご縁があったとは驚きまし



アウトドア専門店SWEN
2018年10月11日オープン



クライミング設備

た。123年という長い歴史の中で、さらに新しい大型投資にも取り組むのですね。やはり、常に新しい時代の先を見ているということですか？

山内 当社グループは不採算の繊維事業で長年苦しみました。常に何か解決策があるとの信念のもと、失敗しても新しい展開にチャレンジを繰り返してきた結果、今があると思っています。現在注力している「サントムーン柿田川」の第4期開発は、当社の未来を切り拓く新しい挑戦です。ところで、クライミングは、とても登れそうもない壁を相手に、不断の努力と新しい挑戦を続けるスポーツだと感じています。その魅力は何ですか？

大場 1回成功するために何百回と落ちるのがクライミングです。落ちてまた登ることを何度も繰り返すのですが、ダメだと思ってやったら絶対に最後の一手は取れません。ルートを発見し、最後まで登り切った時の爽快感は何物にも代え難いものです。また、世界中に難度の高い岩があり、それらを制覇していくという冒険と挑戦は、私の夢の一つです。誰も

登ったことのない未知の岩を制覇すると名前を付けられるのですが、実は、私の名前がついた岩もあるんですよ。

山内 想像も出来ない大変な思いをしながらもクライミングを通じて、未知への挑戦と新たな冒険を続けておられるのですね。当社グループの経営理念である「進取の精神」は、変化に柔軟に対応し新しいことを取り込むという考え方であり、その精神は現在取り組んでいる中期経営方針「Get Ahead of the Future ～新しい時代の先へ～」にも脈々と受け継がれています。当社グループは、今後とも挑戦を続け、変化の激しい経営環境を乗り越えて一段と高い水準で持続的な成長を続けていく考えです。大場選手も、さらなる高みに向かって挑戦を続けるのですね。

大場 はい。私は世界中の多くの難しい岩に挑戦し続けたいと思っています。その過程で多くの難関があると思いますが、私の挑む姿勢を皆さんに応援して頂けたら嬉しいです。また、今後スポーツクライミングがより多くの方に知られてファンが増えるよ

うに積極的に活動を行っていきたいと思っています。

山内 大場さんの夢が叶うよう応援します。当社グループは、東京オリンピック・パラリンピックの2020年に125周年目の節目を迎えることを契機に、さらなる大きな飛躍に向けて頑張ります。

